

被災地派遣レポート〈第25回〉

主税局新宿都税事務所固定資産評価課 大野 裕 さん

7月5日20時05分に、岩手県19班の最終チーム5人が陸前高田に向け出発した。翌朝6時に寝不足のなか、宿泊予定地の民宿に到着しました。

休憩する間もなく、朝食として用意してきたおにぎりを頬張りながら、レンタカーに乗車し、前班から車中で業務の説明を受けました。陸前高田市の被災者支援室に到着し、5人の内1名が、陸前高田市の仮庁舎で罹災証明関係の受付事務に携わり、残り4人が現地（被災者支援室）で本来業務である義援金及び支援金の受付や書類審査等業務の引継を受けました。

現地は、名古屋市の職員が1ヶ月単位の派遣職員として業務を行い、我々のリーダーとして指導してくれました。毎回、支援職員が代わるたびに同じ説明をすることを考えると、頭が下がります。その他、千葉県職員と千葉県内の市町村から派遣されてきた職員と共に活動してきました。主な業務内容は、支援金や義援金の受付（これが複雑で難しい）です。受付けた書類の審査、内容が不備な書類は電話で問合せを行い、睡眠不足と暑さに体はへとへとです。でも、今回の津波で多数の職員が亡くなった陸前高田市と比較すれば、泣き言は言えません。土日の休みも無く我々と共に業務を行い、職員の絶対数が不足している中、黙々と、早朝から日没過ぎまで照明もつけず頑張っている姿に、感銘を受けました。

7月6日から7月12日までは、ルーチン作業でした。前日、昼食（東京都が用意）を食べて気づいたことは、弁当が腐ってしまいそうな暑さのため、氷を購入（店舗が少ない）することも重要な業務となりました。現地到着後、コピー機用の電源確保（詰所の電気容量が小さい）のために発電機を準備する。また、発電機を雨から守るために、簡易テントを組み立てる作業が東京都班の仕事でした。毎朝、業務開始の8時には準備を終えておかなくはなりません。8時過ぎには、被災者の方々も来庁し始めます。電話の対応では、いまだに義援金が出ない、生活が苦しい、何とかならないか、と数多くの話を受けました。もう少しお待ちください、と繰り返すしかありません。自分たちの力の無さに、歯噛みする想いです。また、私たちと業務を一緒に行ってきた市職員の方は、市役所の屋上で津波を受け、流失家屋の屋根に被災した人々が助けを求めながら、海に流されていく姿を、漫然と見送るしかなかったと無念さを話してくれました。胸が張り裂けるような思いだったでしょう。



発電機と市役所仮庁舎（被災者支援室）です。空調設備及び扇風機がないため、団扇で涼を取るほか、方法がありません。日中の気温は優に40度を超えていたと思います。水分補給をしないと熱中症に罹り

そうです。現地では、ドーンと大きな音が何度か響きました。何の音なのか我々には分かりません。地元の方に聞いてみたら、縦揺れの地震である事が判明しました。7月10日には、相当大きな揺れを伴った地震が発生し、現場事務所の近くにある災害対策本部のサイレンが鳴り響き、津波警報が発令されました。海岸と河口には近づかない様にとの放送があり、慌しい雰囲気がちこめました。さすがに、地元職員も慌てる様子に我々も、右往左往の有様でした。民宿には家族風呂しかありません。そこに約20人以上が宿泊しているため、順番待ちとなりますが、業務終了後の汗まみれでは、食事を採ることも出来ません。風呂に入るために約1時間かけて温泉まで行かなくてはなりません。毎回の風呂代は当然実費、でも班員誰もが、文句を言わなかった事が有難かったです。

7月9日の土曜日は、被災者の来所が少なく、千葉県職員と交代で、被災地の視察に行くことになりました。その際に映してきた写真です。何もありませんでした。完成間近だった野球場も、海の中にありました。地盤沈下により、道路のすぐ側まで波が打ち寄せていました。



津波に被災し、滅茶苦茶になった自動車と3階建てのマンションの写真です。遠景で見える山まで、建物は残存していませんでした。マンションの中身は何もありません。潮が腐った匂いがたちこめ、ハエが飛び交い、衛生状態も悪化しているようでした。やっと業務内容も覚え始め被災者に対しての気遣いが出来るようになってきた矢先に、最終日7月13日が来てしまいました。大船渡地域振興センターに挨拶に伺い、副局長に感謝しますと言葉を受けましたが、東京都の支援が最終であることに、無念です、と一言。帰着後に、復興には相当日数がかかることを、ぜひ伝えて欲しいと言われました。後ろ髪を引かれる思いで帰京の途に着きました。映像では見られない現実の姿を見るにつけ、こんな自分に、もっと何か出来ないのだろうか、と考えさせられた支援活動でした。

最後に、19班の若手職員が、一生懸命業務に専念し、愚痴ひとつこぼさず頑張ってくれた事に、感謝したいと思います。最終日に、お世話になった民宿の女将さんを囲んで、最終班全員の集合写真です。暑い場所で、業務をこなしている事を良く理解してくれ、食事には相当気を使って頂きました。女将さん有難う、感謝です。